

## ごあいさつ

M・Cカンタービレ 代表 遠山 忍

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。

令和元年を迎え、日本中が新たな時代の一步を踏み出したばかりの中で、私たちの15回目の定期演奏会を開催できますことは、誠に感慨深いものがあります。

昭和57年に結成した当クラブも、37年の月日を経て今日を迎えることになりました。

この間、様々な課題を抱えながらも、毎週のように練習会場へ足を運び続けたのは、マンドリン音楽の魅力と合奏の楽しさにほかなりません。

定期演奏会は、私たちの音楽志向を表現できる絶好の機会として、当部の主軸になっているイベントです。

今回のプログラムは、前半は部員指揮者による耳馴染みのある曲を、後半は県内外でクラシック音楽の指導者として活躍されている鈴木卓先生に客演指揮をお願いし、マンドリンオリジナル曲を中心に構成しました。

鈴木先生のタクトで、これまでとは一味違う音楽をお聴かせできるよう心を込めて演奏させていただきます。最後までごゆっくりとお楽しみください。

## STAGE MEMBER

|           |           |                   |                   |       |       |
|-----------|-----------|-------------------|-------------------|-------|-------|
|           | 指揮        | 川辺 敦子 (1st Stage) | 鈴木 卓 (2nd Stage)  | 司会    | 山形由紀子 |
|           | コンサートマスター | 小林 幹子 (1st Stage) | 有賀 良子 (2nd Stage) |       |       |
| 1st マンドリン | 有賀 良子     | 小林 幹子             | 内田由美子             | 内田 千恵 |       |
| 2nd マンドリン | 川崎今朝雄     | 青木 千枝             | 塚原 節子             | 川辺 敦子 | 沢田 清美 |
| マンドラ      | 三宅 圭子     | 網倉左知子             |                   |       |       |
| マンドチェロ    | 宮下 好恵     | 坂中 寿美             |                   |       |       |
| ギター       | 中込 夕紀     | 網倉 学              | 川崎三千代             | 鈴木 康司 |       |
| ベース       | 遠山 忍      |                   |                   |       |       |

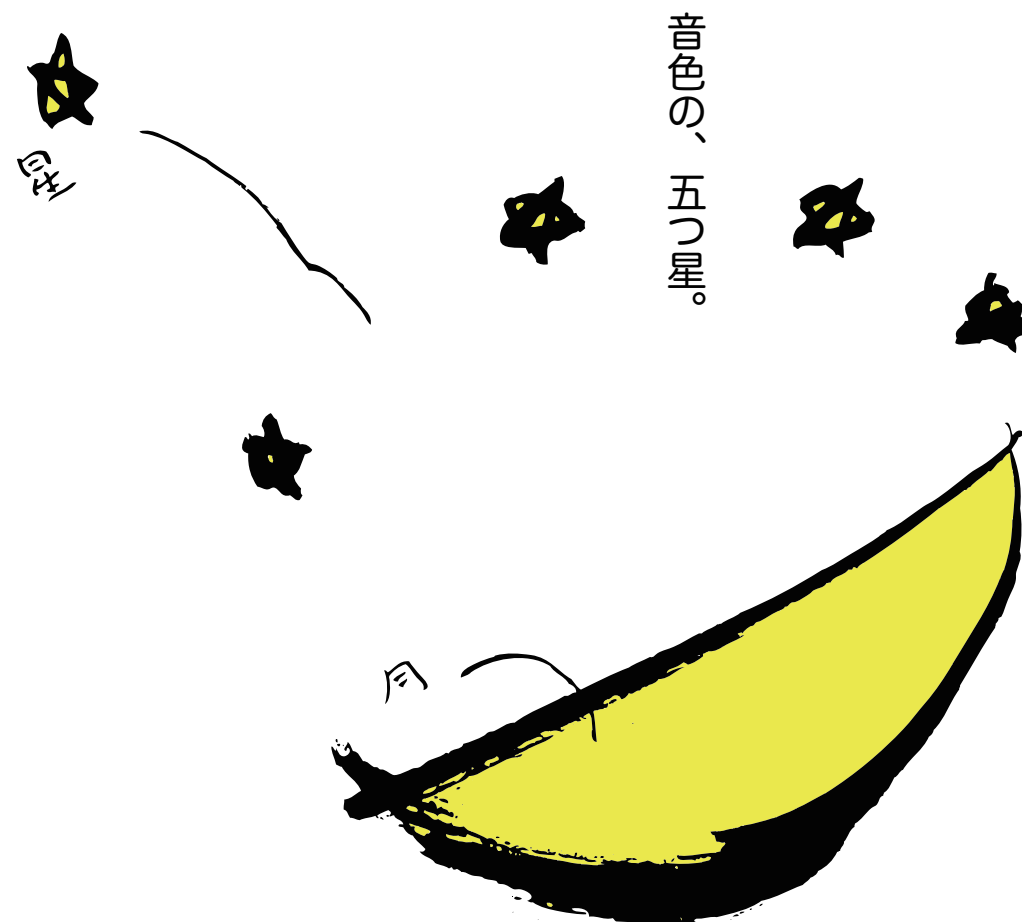


## M・Cカンタービレ プロフィール

昭和57年、県内在住の大学・短大時代のマンドリンクラブのOBがクチコミで集まり結成したアンサンブルグループ。定期演奏会を2年に一度のペースで開催しており、甲府市市民文化祭、清里清泉寮クリスマスコンサートなど色々なイベントにも出演させていただいております。楽器の織りなすハーモニーを大切に、質の高い演奏をめざしています。また、当部では部員を募集しております。マンドリン系だけでなくギター、コントラバス、パーカッション、フルートなども大歓迎です。お気軽にご連絡ください。

練習日：毎週土曜日の夜（7時～9時半）  
会場：甲府市内の公民館（南、西、東など）

連絡先：遠山（Tel 055-228-0382） e-mail:t-man@d4.dion.ne.jp  
カンタービレホームページ：<http://adagio.html.xdomain.jp/>

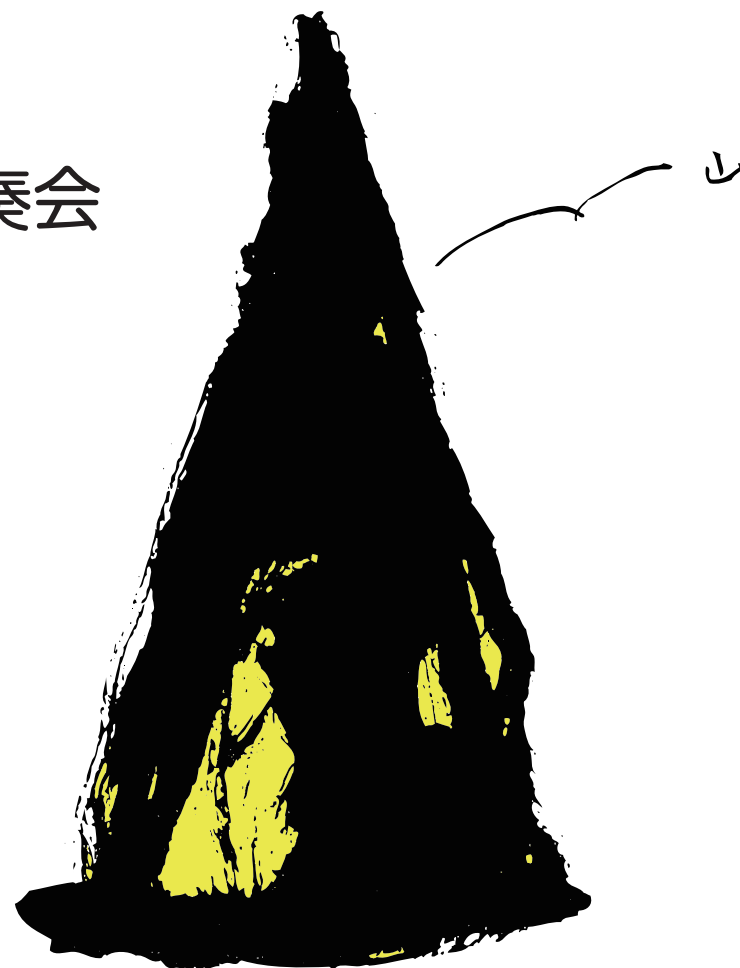


## マンドリンクラブ M・Cカンタービレ 第15回定期演奏会

主催 / M・Cカンタービレ

2019.5.12 (日) 開演 2:00p.m.  
甲府市総合市民会館  
芸術ホール

後援 / 山梨県マンドリン音楽連盟 甲府市教育委員会 甲府市文化協会  
山梨日日新聞社 山梨放送 テレビ山梨 エフエム富士 エフエム甲府 日本ネットワークサービス



## Program

### 1st Stage

|                            |                |                          |
|----------------------------|----------------|--------------------------|
| "My Fair Lady"             | 踊り明かそう         | Frederick Loewe / 武藤理恵 編 |
| "かぐや姫の物語"                  | いのちの記憶         | 二階堂和美 / 森本和幸 編           |
| "菊次郎の夏"                    | Summer         | 久石 譲 / 小関利幸 編            |
| "Nuovo Cinema Paradiso"    | ニュー・シネマ・パラダイス  | Ennio Morricone / 武藤理恵 編 |
| "Pirates of the Caribbean" | パイレーツ・オブ・カリビアン | Hans Zimmer / 伊須 寛 編     |

### 2nd Stage

|                 |   |                        |
|-----------------|---|------------------------|
| Capriol Suite   | カプリオル組曲   | Peter Warlock / 友成貴司 編 |
|                 | 1. Basse Danse<br>2. Pavane<br>6. Mattachins (Sword Dance)        |                        |
| Notte Di Natale | 降誕祭の夜   | Amedeo Amadei          |
|                 | 1. Pifferata 横笛の歌<br>2. Al Presepio 厩にて (夜想曲)<br>3. Alleluia アレルヤ |                        |
|                 | 月に舞う  | 武藤理恵                   |

## 客演指揮者紹介

### \* 鈴木 卓 <Taku Suzuki> \*

東京生まれ。高校卒業後渡欧。ベルリン芸術大学修了。

狭山フィルハーモニー、袋井フェスティバルオーケストラ、夢のプチアトロの常任指揮者を歴任。1999～2007年ベルリン在住中に同地で弦楽室内アンサンブルを結成し教会等で演奏。またG. フェットロ氏に師事しアトロ・サンカルロ（ナポリ）、ゲヴァントハウス歌劇場（ライプツィヒ）等の指揮のアシスタントを務める。現在、北杜市明野町在住。2012年より「きいてけしコンサート」を年4回企画。他にも多方面で活躍中。



### 1st Stage

## Program Notes

#### □ 踊り明かそう

1956年にブロードウェイで初演されたミュージカルの名作『マイ・フェア・レディ』の代表曲。後にオードリー・ヘップバーン主演の映画版も制作され、日本で大ヒットとなった。『マイ・フェア・レディ』は、言語学者であるヒギンズ教授が、貧しい町娘イライザに上流階級の話し方を教育し社交界にデビューさせるが、その彼女に恋をしてしまう、というストーリー。本曲は何ヵ月もの猛特訓の末にやっとの思いで美しい発音ができたイライザが、その喜びを歌い上げるシーンで使われる。

#### □ いのちの記憶

この曲は、スタジオジブリ映画『かぐや姫の物語』の主題歌である。

「あなたがくれた ぬくもりが 深く 深く 今 遙かな時を越え 充ち渡ってく  
・・・いまのすべては 未来の希望 必ず 憶えてる いのちの記憶で・・・」

かすかなピッキング音に始まり、マンドラの主旋律が2nd マンドリン・1st マンドリンに移る。更にマンドラ、マンドチェロが静かに歌いエンディングへと向かう直前、待ちわびたかのように全パートが意思を持った強さで歌い合う。

#### □ Summer

この曲は、映画『菊次郎の夏』（監督・北野武）のメインテーマである。低音部のイントロに続き、主旋律がはじけ重なりあっていく。やがて旋律はギターへと移り3連符に乗った動きの後、マンドリンソロが幻想的な世界を創り出す。曲は最後に盛り上がりを見せた後、悲しみを含んだ結末を感じさせながら終わる。

#### □ ニュー・シネマ・パラダイス

1988年公開のイタリア映画。中年男性が、映画に魅せられた少年時代の出来事と青年時代の恋愛を回想する物語である。感傷と郷愁、映画への愛情が描かれた名作である。

イタリア映画特有の哀愁あるメロディーが、マンドリンの音色と相まって様々な記憶を呼び起こす。

#### □ パイレーツ・オブ・カリビアン

孤高の海賊ジャック・スバロウをジョニー・デップが演じ、迫力ある映像で空前のエンターテインメント作品となった映画である。この中から「Walk The Plank」, 「The Medallion Calls」, 「The Black Pearl」, 「Barbossa Is Hungry」, 「One Last Shot」, 「He's A Pirate」をお届けする。ギターが同じ音形を繰り返し、それに乗ってマンドチェロが旋律を奏でた後、4拍子と6拍子を思わせる旋律が同時進行しながら、よく知られた主題へと向かう。映画の各シーンが目に浮かぶ勇壮なメロディー、冒険心を煽るリズムがあまりにも有名で、映画音楽史に燦然と輝く名曲である。

### 2nd Stage

#### □ カプリオル組曲

ピーター・ウォーロックは、20世紀前半のイギリスの作曲家である。“warlock”とは「魔法使い」という意味である。彼はこれを作曲用のペン・ネームとして使っていた。

本曲は全6曲からなる組曲であるが、本日はこの中から1番、2番、6番の3曲を演奏する。いずれもそれぞれが特徴をもった16世紀風舞曲である。特に6番は“戦いの踊り”の副題が付いており、剣と剣がぶつかる音が今にも聞こえてきそうな雰囲気である。

#### □ 降誕祭の夜

第1曲：天使から救世主の降誕を告げられた羊飼いが、その幼子を目見ようと楽しげに横笛を吹きながらベツレヘムの町を目指している情景が浮かぶ。降誕祭前の高揚感を感じさせる曲である。

第2曲：厩（うまや）の中で飼い葉桶に布で包まれた幼子が寝かされており、それをマリアとヨセフが優しく見守っている。イタリアではこの情景を再現した模型をプレゼピオと呼び、クリスマスに教会や家に飾る。

第3曲：教会の鐘の音から始まる本曲は、降誕祭を祝う陽気な祭りを想起させる。曲の中間部は一転して厳かな典礼（礼拝）の様子である。

#### □ 月に舞う

月の神の手をすり抜け人間界に降りた妖精は、若者と禁じられた恋に落ちてしまう。やがて月の神の知るところとなり、彼女は掟に背いた者として永遠に年を取ることなく、月の世界で舞い続けることを命じられる。

曲は、月の神の存在を示す口短調のマンドラの旋律から始まる。その後続くマンドリンソロには、彼女の嘆きと舞うことへの覚悟が集約されている。ゆるやかに流れる悩ましげな主旋律は3/2拍子から6/8拍子に変わり、舞いにも動きが加わる。4/4拍子からは、主旋律と並行して冒頭の月の神のテーマが勢いを伴い現れる。小節ごとに拍子が変わることで高揚感が生まれ、アップテンポとなったところで突然舞いが止まる。

中間部のマンドリンソロは、彼女が人間界に降りたときの妖精の心を再現。二長調に転調し、若者と過ごした愛おしい日々が甘美な音楽と共に甦る。彼女との記憶を消された若者が、ふと月を見上げる時にだけ彼女に与えられる、至福の贈り物である。彼が月を見上げることをやめたその時、曲は口短調に戻り、彼女の舞いは再び始まる。哀しく激しく狂おしく、月に舞うのである。